

橿研 通 Vol.6

あなたと遺跡の新しいつながり方をみつける情報紙

第 6 号 目 次

・奈良考古情報 発掘成果 史跡・名勝 飛鳥京跡苑池

1

・あたらしい研究と出会いをもとめて

古墳の中を宇宙線ミュオンで見る

中国と日本の考古学史を学ぶ

初期群集墳の研究

・考古学がつむぐ人のつながり 研修が結ぶ日本とシリア (レバノン編)

・『考古学』の楽しみ方 ミステリー小説からみた考古学の世界 (4)

届け！横溝正史と岡山県倉敷市真備地区の考古学

・奈良の世界遺産と考古学 (6) 吉野山南部遺跡群

日本学術振興会 石黒勝己

5

西北大学文化遺産学院 劉 斌

7

内藤元太

8

絹島 歩

11

13

表紙写真：第2回考古学写真甲子園「古代の造形美を撮ろう!!」受賞作品

< 自由撮影会部門 >

大賞 (所長賞) 「土偶のみみかざり」 白石菜葵 (県立橿原高等学校) 上段右

特選 (友史会賞) 「万古千秋 (ばんこせんしゅう)」 左近サツキ (県立奈良朱雀高等学校) 下段右

準特選 (メディア賞) 「輝き (かがやき)」 森岡佑介 (県立橿原高等学校) 下段中央下

< 特別撮影会部門 >

大賞 (所長賞) 「煌 (きらめき)」 県立奈良朱雀高等学校 奈良朱雀ビジネス企画部 上段左

特選 (友史会賞) 「輝き (かがやき)」 左近サツキ (県立奈良朱雀高等学校) 下段左

準特選 (メディア賞) 「横顔」 喜村柊太 (県立橿原高等学校) 下段中央上

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池は、高市郡明日香村大字岡に所在する飛鳥時代の庭園遺跡です。飛鳥京跡苑池は、奈良盆地の南東部に位置しており、北流する飛鳥川右岸の河岸段丘上に立地しています。飛鳥京跡苑池の南東には、飛鳥時代の天皇の宮殿中樞である飛鳥宮跡内郭、北東には、日本最初の本格的寺院である飛鳥寺、飛鳥川を挟んで南西には、斉明天皇の菩提を弔うために建てられた川原寺が位置しています。

▼発掘調査以前

大正5（1916）年、現在の高市郡明日香村大字岡小字出水で、水田の排水路が掘られた際に、ふたつの巨石が掘り出されました。巨石は、溝や孔を掘るなどの加工が施された石造物でした。このふたつの石造物は、出土状況から組み合わせ関係にあったとのこと。これらの石造物は、加工や出土状況から導水施設の可能性が指摘されていました。しかし、いつつくられたのか、使用されていたのか、その性格は長い間謎のままでした。

このように、飛鳥京跡苑池は、飛鳥時代の首都である飛鳥の中心地に位置していることから、宮殿に付属する庭園であったと考えられます。

▼発掘調査のメスが入る

平成11（1999）年、大正時代にふたつの石造物が出土した地点で、橿原考古学研究所が発掘調査をおこないました。その目的は、石造物の出土位置の確認と石造物の性格の解明です。

発掘調査の結果、石造物の出土位置が確認されるとともに、新たにふたつの石造物が出土しました。これらの石造物は、護岸に石積み、底面に石敷きを施した大規模な池の遺構にともなうものであることが明らかとなりました。そして、大正時代に掘り出されたふたつの石造物は、池にともなう新



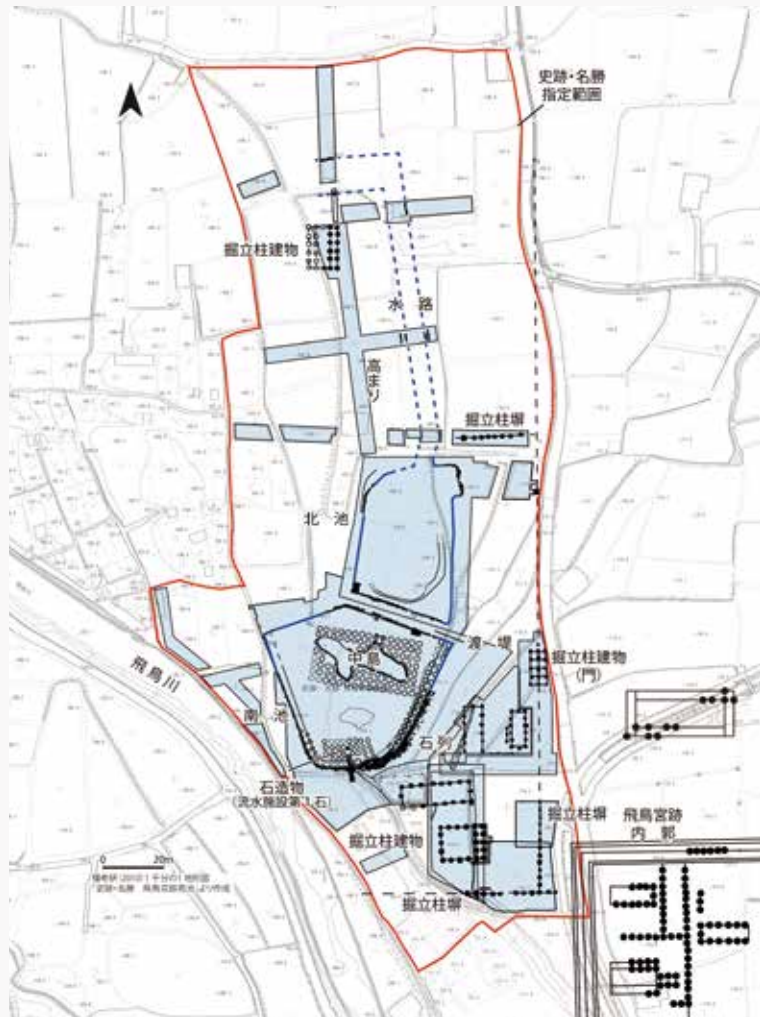
大正時代（1916年）に掘り出された石造物



1999年の調査で新たに出土した石造物



1999 年調査 南池垂直写真（上が北）



飛鳥京跡苑池の遺構配置（2019 年 3 月現在）

たに出土した石造物と一連のもので、池への流水施設を構成するものであることもわかりました。

その後の継続した発掘調査で、飛鳥京跡苑池は、石積み護岸と石敷きをもつ南北ふたつの池と池を仕切る渡堤、北池から北にのびる石積み護岸をもつ水路などで構成されることがわかりました。その範囲は、南北約280m、東西約100mにおよびます。

また、飛鳥京跡苑池は、7世紀の中期に造営、7世紀の後半に改修され、9世紀の初め頃まで維持・管理されていたことも明らかとなりました。

平成15（2003）年には、飛鳥京跡苑池が、飛鳥時代の政治・文化および日本における庭園の変遷を知る上で極めて重要な遺跡であるということが、国の史跡・名勝に指定されました。

▼飛鳥京跡苑池の全貌に迫る

平成22（2010）年から、飛鳥京跡苑池の復元整備にむけて、発掘調査が再開されました。

発掘調査の再開によって、これまで明らかでなかった飛鳥京跡苑池にともなう掘立柱建物や区画施設である掘立柱塀、門といった施設が存在が確認さ

れました。特に、南池については、平面形や規模、当時の水深、造営当初の姿やその後の改修状況と変遷など、その全容と詳細が明らかとなりました。

南池の平面形は、五角形状です。その規模は、東西が最大で約63m、南北が最大で53mです。当時の水深は、池にたてられた柱材の分析から、約30cmであることがわかりました。

南池のなかの施設は、度重なる改修が加えられています。中島は、もともと小規模であったものが大きく作り替えられています。その過程で、中島の周囲には、桟敷状遺構がつくられました。桟敷状遺構は、水上に浮かぶ仮設の木製舞台のようなものです。護岸周囲の池底にも改修が加えられています。これらの施設の改修が、7世紀の後半以降であることも、発掘調査によって、より明確となりました。

平成30（2018）年の調査では、飛鳥京跡苑池を構成するもうひとつの池である北池の平面形や規模、構造などが明らかとなりました。

北池の平面形は、南北に長い方形で、北西部が隅丸状になり、北東部が東へ張り出します。その規模は、東西が最大で約36m、南北が最大で約52mです。当時の水深は不明ですが、池の深さは、



2012 年調査 南池全景（北東から）



2013 年調査 南池北岸（渡堤南岸）と池底の石敷き（西から）

石積み護岸の最も高く残る部分からみて、4 m 以上となります。

護岸の石積みは、南（渡堤北岸）と北・東岸は、石材をほぼ垂直に積みますが、西・北西岸の大部分は、階段状となることがわかりました。階段状の石積み護岸は、南池にはみられません。このように、近年の発掘調査によって、飛鳥京跡苑池の全貌が徐々に明らかとなりつつあります。発掘調査は今後も継続しておこなわれる予定です。

▼飛鳥京跡苑池を知る

平成28（2016）年には、飛鳥京跡苑池の復元整備の一環で、現地に「飛鳥京跡苑池休憩舎」がオープンしました。飛鳥京跡苑池休憩舎では、これまでの飛鳥京跡苑池の発掘調査成果について、パネルや映像、模型で紹介しています。飛鳥めぐりの際には、是非立ち寄りいただき、飛鳥時代に思いをはせつつ、ご見学ください。



2018 年調査 北池垂直写真（上が北）



2018 年調査 北池西岸（北東から）

古墳の中を宇宙線ミュオンで見る

★ものの中を見るアイデア

星雲賞受賞のSF小説『星を継ぐもの』は、月面で発見された5万年前の人間遺骸が所持していた風化しかけの荷物を、トライマグネスコープという装置で内部透視し正体を解明していくストーリー。作中で透視装置の原理は、「入射した素粒子ニュートリノが荷物を構成する原子の近くを通る際に受ける相互作用が通過後のニュートリノに測定可能な変化を与えるためそれを測定して3D画像化や素材の解明をする」と説明されています。

現在では、ニュートリノは物質と全くと言って良いほど相互作用しないことがわかっていてそのため不可能といえるのですが、かなり似たことがミュオンという素粒子を用いて行うことが出来るようになってきています。私達は特にこれを発掘の難しい古墳の内部を見ることに用いています。

★古墳のミュオンラジオグラフィ

現像後の原子核乾板を顕微鏡で見ると、ミュオンの通った跡が写っていることが1本1本確認できるのです。ミュオンの飛来方向もわかるので、空洞の方向や大まかな形も検出可能です。

★春日古墳における計測

春日古墳（奈良県斑鳩町（図3）は古墳時代後期に造られた直径約30m、高さ約6mの円墳であるとみられています。しかし、未発掘であるため詳細は不明で、埋葬施設に関する情報も詳しくはわかっていませんでした。春日古墳は法隆寺の近くに立地し、その南西約150mには著名な藤ノ木古墳が存在しており、両者の関係が注目されます。春日古墳は陵墓（天皇陵等）への

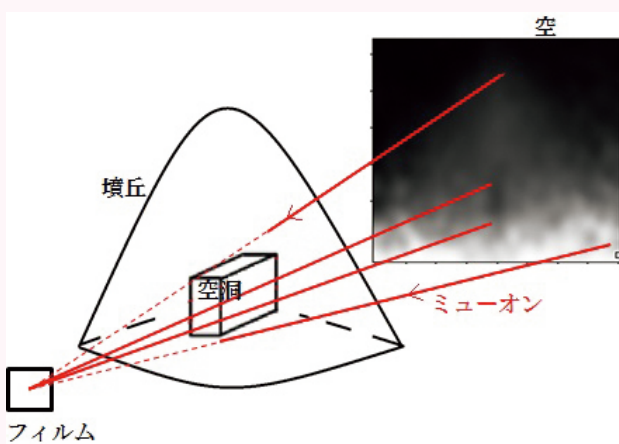


図1 古墳のミュオンラジオグラフィの概念図

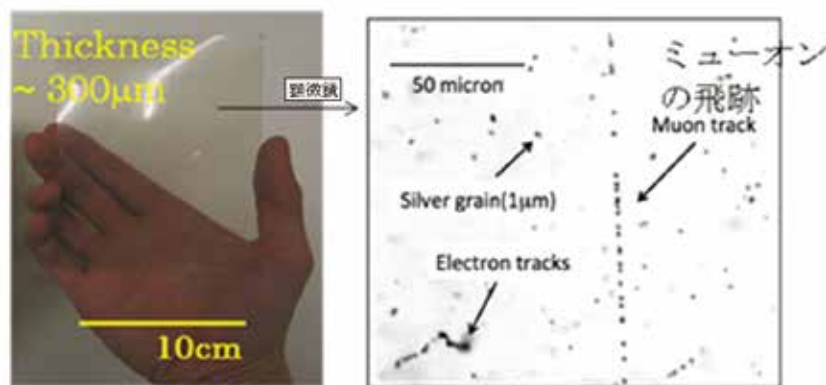


図2 原子核乾板とその顕微鏡拡大画像



図3 春日古墳 (A) と墳丘の様子 (B)

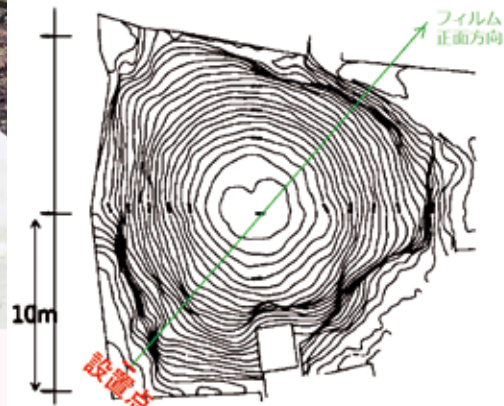
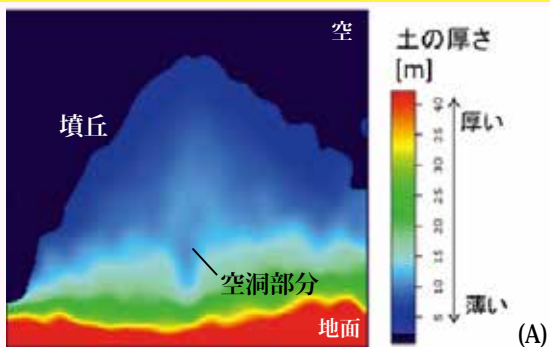


図4 設置した原子核乾板の様子

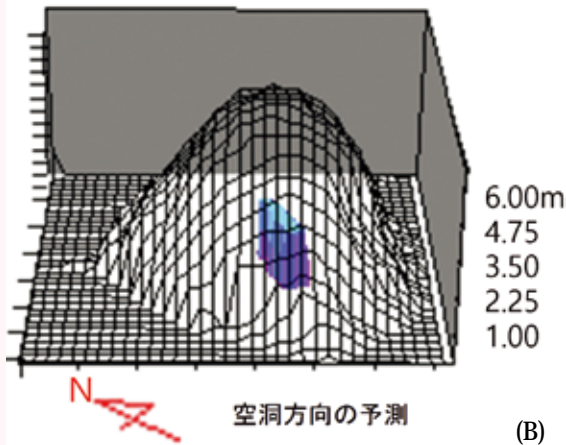


図5 撮像結果(A)と空洞方向の予測(B)

治定)ではありませんが、周辺に古くからの住宅が集まる立地のため、これまで発掘が行われて来ませんでした。

春日古墳の墳丘の外、古墳南西側にA4サイズの原子核乾板を3か月間置き(図4)、内部の画像を試みました。現像後の原子核乾板を自動顕微鏡ステージでスキャンして総数約100万本のミュオンの方向分布を得、これを土の厚さに変換することで画像化を行いました。

★春日古墳での結果

得られた図5の色は土の厚さの場所ごとの違いを表しており、古墳の墳丘の低い部分では墳丘の中心方向が周囲の部分よりも薄く検出されています(青い縦長の領域)。これは墳丘の外表面の形状等からは読み取れない情報であり、古墳中心部に奥行き6.1±0.5mの空洞が存在していると想定することができます。

★藤ノ木古墳との関係

付近に存在する藤ノ木古墳(図6)は6世紀後半の築造であると副葬品などの出土遺物や横穴式石室の構造から考えられ

ています。石室内に設置された石棺内からは、金銅製品など2名分の豪華な副葬品が出土しています。埋葬施設である横穴式石室は、南東から墳丘の中心方向に向かって造られています。

先行研究によると、春日古墳と藤ノ木古墳に深い関係があった場合、両者で異なる構造の埋葬施設が造られている可能性が有る、と指摘されていました(註1)。本研究の結果、空洞の方向に違いが見られたものの、明らかな埋葬施設の構造の違いは検出されませんでした。

★これからの研究

ミュオンが遮蔽物中で止められると一時的に遮蔽物中の原子に取り込まれて原子を構成し、原子に対応した波長のガンマ線(X線より高エネルギーな光)や電子を放出します。これを測定することで物質内部(数cmまで)の原子存在比が計測できるため、古墳の外から石室内に描かれた壁画などを検出することも期待できます。ミュオンの計測を行うことにより、石室を不用意に開口させて壁画がカビなどから被害を受けるリスクを軽減することもまた可能となります。

いしぐろ かつみ
石黒 勝己

日本学術振興会 / 特別研究員

プロフィール

- 1986年生まれ、愛知県出身。
- 2015年3月、博士号取得(理学、名古屋大学)。
- 2009年にはイタリアのグランサッソ国立研究所でニュートリノ研究に従事。
- 2016年度より榎原考古学研究所所属、日本学術振興会特別研究員。

私事になりますが、筆者は榎原考古学研究所では初めての学術振興会特別研究員として2016年度から3年間お世話になりました。2019年3月をもって任期満了となります。すべての方に感謝はできません。ここで体験できたことはかけがえない財産となっています。有難うございました。

(註1) 奈良県立橿原考古学研究所編 1990年『斑鳩町の古墳』斑鳩町教育委員会

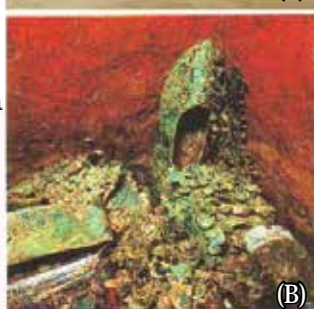
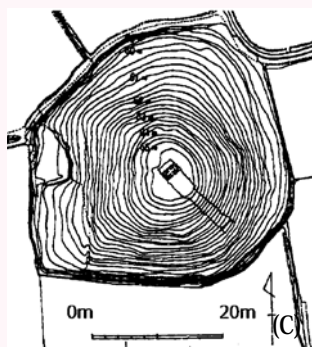


図6 藤ノ木古墳(A)と石棺内の副葬品(B)、及び発掘された埋葬施設の方向(C)

中国と日本の考古学史を学ぶ

私は2018年9月～2019年3月まで、奈良県立橿原考古学研究所で研修を行っている中国陝西省（せんせいせい）西北（せいほく）大学文化遺産学院の劉斌（りう びん）です。

西北大学で学士と修士、中国社会科学学院の大学院で博士の学位をそれぞれ取得しました。2004～2006年には四川省（しせん）文物考古研究院に勤め、2009年に博士号を取得した後に西北大学文化遺産学院に就職し、現在は西北大学文化遺産学院考古学系の副教授を務めています。

私の専門は「考古学史」と「中国新石器時代」で、大学の講義では主に「考古学史」、「中国先史考古学」、「野外考古学実習」などの課程を担当しております。2011年には中国国家文物局が認定する考古学指導者の資格を取得し、考古学研究室の学生・院生（しんがくせい）を新疆ウイグル自治区（かんしゅうく）・甘肅省（かんしゅうく）・陝西省（せんせいせい）などへ何度も引率し、発掘調査を指導しました。

2010～2018年の間に相前後して、中国教育部の「関中地区（かんちゅう）新石器時代社会の複雑化の過程及び地域間比較研究」、国家社会科学基金の「米（こ）国フリーア美術館所蔵中国考古学関連書類の整理と研究」、陝西省教育庁の「新中国の新石器時代考古学史研究」、

鄭州（ていしゅう）中華の起源と嵩山（そうざん）文明研究会の「河南（かなん）地区考古学与中国初期の考古学術用語の構築」、新疆ウイグル自治区額敏（がくびん）県の「新疆額敏岩画の調査研究」などの課題研究を中心となって進めました。また、国家社会科学基金重要競争資金プロジェクトの「陝西淳化（しんけい）棗樹溝（さうしゅうこう）遺跡発掘報告」、国家社会科学基金の「華北（くわはく）地区旧石器・新石器時代過渡期（さいせつき）の細石器（さいせつき）遺物研究」などの課題研究にも参画しております。

発表した学術論文は20本以上あり、主なものとして「中国新石器時代の考古学報告の中の遺物分類思想の変遷とその背景の分析」、「平等分配から「全



新疆ウイグル自治区也木勒遺跡 発掘現場での講義風景

て国に帰す」まで、「古物保存法」中の埋蔵文化財所有権の改正の経緯」、「陝西扶風（ふふう）案板（あんばん）遺跡2012年発掘調査概報」、「中国初期の考古学術用語体系の構築過程」などがあります。また出版物としては、専門書の『中国古代青銅器の整理と研究・青銅盤（せいどうばん）卷（くわん）』（共著）、国家企画教材の編纂に参画した『考古学概論』があります。

今回の奈良県立橿原考古学研究所の研修では、主に日本考古学の中国考古学術用語に対する影響の研究を行っております。日本の漢字は当然ながら中国から伝来したのですが、1894年の日清戦争の後、中国は日本から学ぶことをはじめ、大量の中国人学生が日本に留学し、たくさんの日本語の中の漢字の語彙（ごい）を中国に持ち帰りました。そのことによる現代中国語に對しての影響ははかり知れませんが、今日の中国語において、800余りの常用語彙（ごい）が近代に日本語の中から借りたものとなっております。

同様に中国初期の考古学術用語においても、日本の考古学から一定の影響がありました。日本の考古学は1877年にはじまっており、中国より40年余り早く、日本の考古学者は率先して重要な西洋の考古学術用語を



陝西省棗樹溝（さうしゅうこう）遺跡 馬坑（ばけい）の調査風景

Liu Bin
劉 斌

西北大学文化遺産学院 / 副教授

プロフィール

- 中華人民共和国 河南省出身
- 西北大学文化遺産学院で、主に考古学史・先史考古学の教育と研究に従事。
- 2018年9月～2019年3月、橿原考古学研究所にて研修。

翻訳しました。1900～1937年には、例えば「考古学」、「石器時代」、「細石器」などの学術用語が、中国語に翻訳された日本の歴史学・考古学・人類学の著作を通じて陸（りく）続（ぞく）と中国に入り、今なお用いられている学術用語が少なからずあります。

初期群集墳の研究

◎古墳のバリエーション

「古墳」と聞くと、例えば大阪府に所在する百舌鳥・古市古墳群など巨大な鍵穴形の前方後円墳をイメージする人が多いと思います。しかし、約12万基ある古墳の中で、前方後円墳の数は約5200基と全体のたった4%ほどに過ぎないのです。

実は古墳として現在残されているものの多くは10〜20mほどの小規模な墳丘をもつものです。それらは群集して築造されていることから、「群集墳」と呼ばれています。

壮大で、豪華な副葬品を持つ巨大な前方後円墳の研究は古墳時代研究の花形とも言え、当時の権力者像を考える上で欠かせませんが、おそらくそれほど位の高くない人々が葬られたと考えられる群集墳の様相を整理することもまた、古墳時代の社会像を考える上でとても重要といえるのです。

◎群集墳のひみつ

群集墳の研究が進む中で明らかになってきた興味深い事実があります。それは、群集墳のほとんどが最初の方後円墳が造られてから、約250年後の、古墳時代後期以降に造られている

ということなのです。また、これらの多くの群集墳には、それまで一般的でなかった横穴式石室が採用され、追葬が行えるようになりました。群集墳の中には、例えば奈良県天理市に所在する龍王山古墳群など、わかっているだけで約800基もの古墳が造られた大規模なものがあります。群集墳が造られるようになったことは、古墳時代社会や葬送のあり方を考えると、極めて大きな変化であったと言えます。

このように、これまで限られた人物しか築造できなかった古墳を多くの人々が急激に築造し始めることから、古墳時代後期には、権力者が政治を行う上での社会的制度を大きく転換させた可能性があります。

◎奈良県は例外だらけ

ここまで、群集墳がどういったものか説明をしてきましたが、古墳時代の政治の中心地であった大和盆地には、一筋縄では理解できない群集墳があります。それが「初期群集墳」と呼ばれるものです。

先に述べたように、群集墳とは古墳時代後期になって初めて造られ始めるものであるとの理解が一般的でした。しかし1960年代になると発掘調査

が進み、大和盆地南部を中心とした地域では古墳時代中期後半には既に群集墳が築造されていたことが明らかになつたのです。それらは「初期群集墳」と呼ばれるようになり、現在も発見が相次いでいます。これらの事実から、なぜ大和盆地では全国に先駆けて初期群集墳が数多く造られたのか、という新たな疑問が考古学者たちを悩ませることとなったのです。

◎初期群集墳の被葬者像

ではこの例外的な初期群集墳はどうして造られたのでしょうか？そのヒントをあたえてくれる例として、新沢千塚126号墳を紹介しましょう。

新沢千塚126号墳は新沢千塚古墳群北群にある東西22m・南北16mの長方形の古墳で、その規模は一般的に群



小規模な古墳が密集する
新沢千塚古墳群（筆者撮影）

集墳でみられる古墳と変わりません。しかし、発掘調査によってこの古墳からは、朝鮮半島または中国大陸からもたらされたと考えられる金製・銀製の装身具、そして現在のイラン・イラク周辺から運ばれてきたであろうガラス製碗・皿など、国際色に富んだ驚くべき副葬品が多数出土したのです。

このように初期群集墳からは、海外から運ばれてきた物が出土することがあります。このことから、初期群集墳の中には、特別に古墳の築造が許された渡来人によって造られたものがあると推測されます。大和盆地にはまだまだ実態が掴めない初期群集墳が数多く存在します。これらの古墳の築造契機をすべて渡来人によるものと理解するのは早計ですが、今後もグローバルな視点を持って研究を進めることが非常に重要と言えるでしょう。

ないとう げんた
内藤 元太

調査課 / 技師
(併) 文化財保存課 / 技師

プロフィール

- 埼玉県出身。
- 2018年、大阪大学大学院博士前期課程修了。
- 2015年、早稲田大学卒業。
- 古墳時代の埴輪を中心に、手工業生産や、群集墳を研究中。
- 建造物の修復現場に出向く機会があり、最近では寺院の建築にも興味がある。

研修が結ぶ日本とシリア（レバノン編）

当研究所では平成29（2017）年度より、国連開発計画（UNDP）からの委託により、シリア・アラブ共和国の文化財関係者の人材育成事業「シルクロードが育む友情プロジェクト」を実施しています。

この事業の一環として、平成30（2018）年12月18日から22日にかけて、レバノン共和国考古総局の協力の下、レバノン共和国ビブロス（Byblos, Libn）において、当研究所の4名の研究員がシリア古物博物館総局の専門家4名に対して、文化財の三次元形状計測技術の研修を実施しました。

今回の研修に参加したシリア人研修生は、昨年夏に日本で行われた研修にも参加しており（糧考研通信Vol.15参照）、約5か月ぶりの久々の再会となりました。

まず、初日に当たる12月18日は日本での研修の振り返りから始めました。それ以降、順次、機器取り扱い上の注意点を復習しながら、機器の設置方法、機器の操作法までを2日間かけてしっかりと身に付けてもらいました。

研修2日目の午後以降は実践的な研修を行いました。私たちが去った後の

ことも見据え、研修生たちが自ら考え、工夫して三次元計測を進められるよう指導を行いました。どうすれば効率的に、かつ正確に計測できるかを研修生自らで考えてもらい、計測実習してもらいました。計測技術を身に着けた後は、そのデータをいかに活用できる形にするか、そのためのデータ処理研修を行いました。

研修生自らが計測したデータとともに、日本から準備し持参した古代瓦のデータなど20点近くのデータ処理を行ってもらい、確実にその技術を身に付けてもらいました。

参加者…西藤清秀（技術アドバイザー）、
※奥山誠義（指導研究員）、杉山拓己（主任研究員）、河崎衣美（主任技師）、※勝川若奈（学芸嘱託）
※執筆者





↑平成最後の大災害

「平成最後の夏」は、多くの自然災害が発生しました。ゲリラ豪雨、複数回にわたる台風直撃、さらには大阪府北部や北海道を震源とする地震など、改めて自然の脅威を知らされました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私の故郷の岡山県では、特に高梁川に注ぐ支流である小田川下流で川が氾濫し、大きな被害が発生しました。この地区は旧真備町地区と呼称されるところで、平成17（2005）年の合併



岡山県倉敷市真備地区の位置

によって船穂町とともに倉敷市に編入しました。真備地区は古くからの歴史を持ち、またミステリー界でも横溝正史の戦時中の疎開先として有名です。今回は、真備地区の今後の復興を祈って、真備地区の考古学とミステリーについて取り上げたいと思います。

↑横溝正史と真備地区

真備地区の関わりが深い人物として横溝正史が挙げられます。横溝正史は兵庫県出身の小説家ですが、戦時中の昭和20（1945）年4月より3年間、真備町岡田地区に疎開します。疎開宅

は現在も残っており、一般にも公開されています。横溝正史の疎開時代のお話はエッセイとして『金田一耕助のモノローグ』（1993年、角川文庫）にまとめられています。昭和23（1948）年に『本陣殺人事件』で名探偵金田一耕助が初登場するわけですが、その作品は横溝正史が疎開していた真備地区が舞台となっていました。

真備地区には多くの重要な遺跡が眠っています。天狗山古墳は小田川と高梁川の合流地点を見渡せる丘陵上に位置する5世紀後半の古墳です。朝鮮半島南部の栄山江流域付近で生産されたものと類似した陶質土器が出土しています。また埋葬施設や鉄鉾、胡録金具などは朝鮮半島南東部の洛東江下流域に系譜が求められるもので、被葬者と朝鮮半島との関係が強く窺えます。

↑真備地区の遺跡

真備地区には多くの重要な遺跡が眠っています。天狗山古墳は小田川と高梁川の合流地点を見渡せる丘陵上に位置する5世紀後半の古墳です。朝鮮半島南部の栄山江流域付近で生産されたものと類似した陶質土器が出土しています。また埋葬施設や鉄鉾、胡録金具などは朝鮮半島南東部の洛東江下流域に系譜が求められるもので、被葬者と朝鮮半島との関係が強く窺えます。

す。近隣には未盗掘で多くの副葬品が出土した勝負砂古墳もあり、天狗山古墳と近い時期に築造されたと考えられます。6世紀中ごろの首長墓と考えられる二万大塚古墳は墳長38mの前方後円墳です。当時この地域で最先端を行く横穴式石室を採用しており、先進性が伺えます。また6世紀末ごろの築造と考えられる箭田大塚古墳は、巨大な石を用いて横穴式石室を築造している、吉備地域の中でも「三大巨石墳（註1）」として著名な古墳です。さらにこの地域は、奈良時代の政権を支えた官僚である吉備真備を輩出した地域としても重要です。

仮面舞踏会

横溝 正史



角川文庫

横溝正史著『仮面舞踏会』（角川文庫）

↑横溝正史作品の考古学者

横溝正史の作品にはこのような真備地区の遺跡は登場しません。ただ疎開先の岡山から東京へ戻った以降の作品には考古学者を職業とする人物が登場します。1人目は『死神の矢』（1956年、角川文庫）に登場する古館博士です。古館博士は金田一耕助の友人で、



箭田大塚古墳（2019年1月、筆者撮影）

弓矢の収集を趣味としています。3人の男性の中から娘の結婚相手を決める際に、その弓矢が絡んだ事件が発生します。作中、古館博士は契丹文化の起源に関する講演をしていたので、専門は東アジア考古学であった可能性が高いです（註2）。

もう一人は『仮面舞踏会』（1974年）に登場する場的英明です。『仮面

舞踏会』は、映画界の大スターである鳳千代

子の過去の夫たちが謎の死を遂げていく中、

現在交際の元侯爵の御曹司、飛鳥忠熙が金

田一耕助に調査を依頼するお話です。場的英

明は古代オリエントを専門としており、イン

ダス文明の遺跡発掘の調査費を捻出してもら

うため、飛鳥家を訪れます。飛鳥忠熙も過去

にエジプトなどで発掘調査をした経験があり、

屋敷内に古代オリエントの出土品や世界

各国の考古学の文献を置いた部屋の様子が描

かれています（註3）。

2作品には、注目すべき点があります。両作品とも考古学者に助手や弟子が常に付き従っていることです。彼らは現在の大学の教授と助教の関係というよりも、考古学者個人の助手として行動を共にしているように見えます。横溝正史が具体的にどのような資料から考古学者を描いたかはわかりませんが、当時の考古学者がこのように見えていたのでしょうか。

↑最後に

4回にわたって書いてきました考古学とミステリーについてのお話も今回が最後です。これまで見てきたように、ミステリー小説に考古学が描かれることは決してネガティブなことではありません。ある時は世相を反映し、ある時は考古学の持つ魅力を引き出してくれます。またスポットライトの当たっていないかった遺跡が注目される機会ともなります。

私の考古学とミステリーのお話はまだまだ尽きません。いつかまたお話しさせていたくために、より面白い話を探求しておきたいと思っています。

（註1）残りの2つは、こうもり塚古墳（総

社市）と牟佐大塚古墳（岡山市北区）。

（註2）古館博士のモデルは、鳥居龍蔵の可能性がある。鳥居龍蔵は契丹文化に関する著作も数多くある。また横溝正史が博文社で雑誌『新青年』の編集長を行っていた1928年に、鳥居龍蔵が『新青年』に寄稿している（第9巻第1号）。この着想は、齊藤希所員のご教示による。

（註3）『仮面舞踏会』は一度1962年に書き始めたが、途中で中断し、1974年に全体が完成したという経緯がある。1962年のエッセイで、「ノンフィクション全集」の考古学関連のものや、娘が大学の関係で所蔵していた考古学関係の本を片っ端から読んだとあり（『探偵小説50年』2003年、講談社）、その時期に横溝正史が海外考古学に関心を持っていたことが伺える。そのような背景の中で作品に考古学者が登場した可能性がある。

きぬはた あゆむ
絹畠 歩

調査課 / 主任技師

プロフィール

- 岡山県出身
- 群集墳について研究中
- 最近アンソニー・ホロヴィッツ著『カササギ殺人事件』（創元推理文庫）を読みました。アガサ・クリスティー好きにオススメです。

吉野山南部遺跡群

吉野山の蔵王堂から坂道を辿り上千本の桜並木を通り抜けると、やがて吉野水分神社の鳥居が目にとまります。この吉野水分神社から金峯神社にかけての山腹には、たくさんの方の平場遺構（以下、平場と略記）があります（図）。平場とは、山の斜面を削り、削った土で平坦面を造成したもので、往時はそこに建物が建てられていました。現在は、杉の人工林に覆われており、その存在を知る人は僅かです。平場の中でも、「金照坊」地区と上岩倉地区の平場は大規模なものです。

◆「金照坊」地区

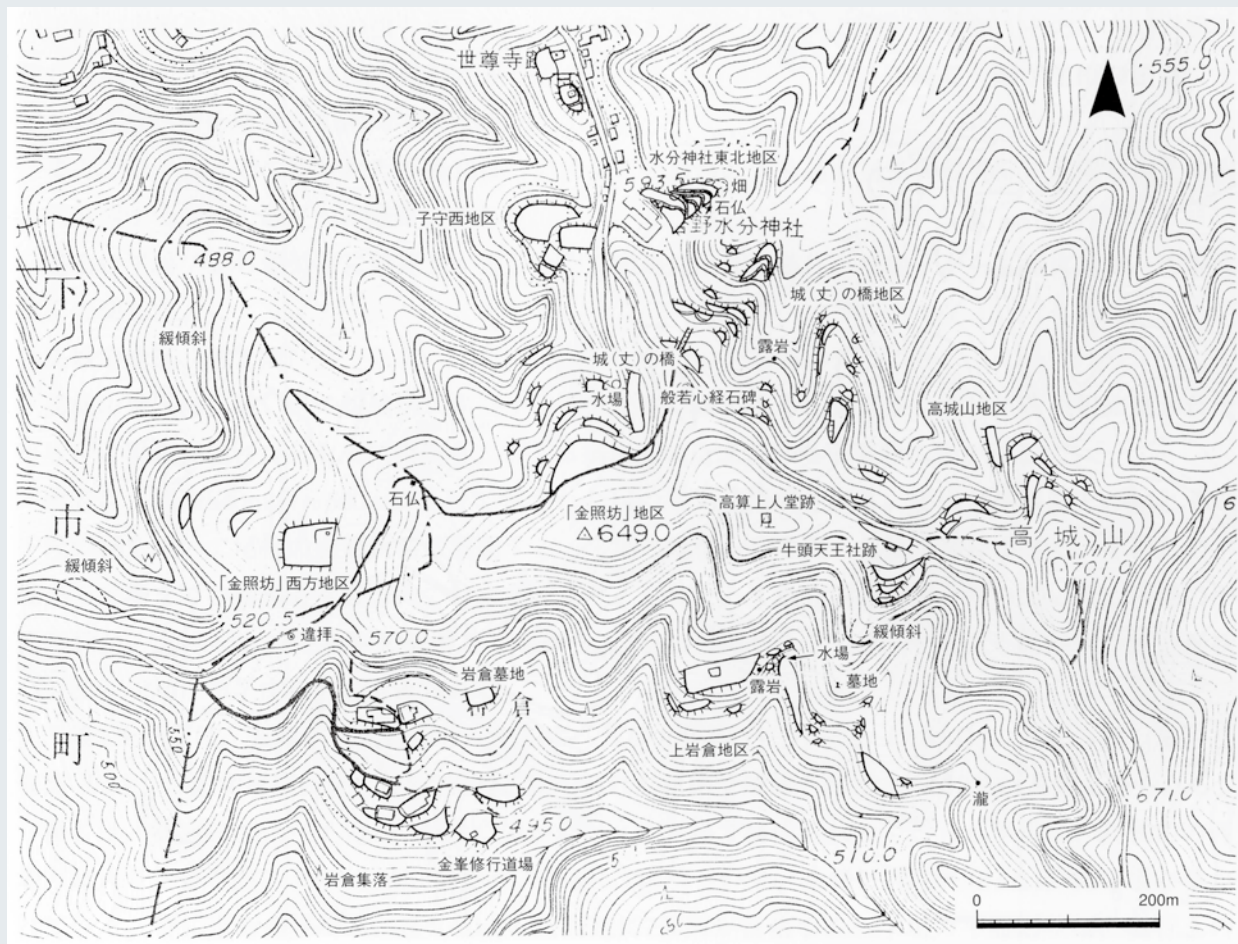
水分神社から急な坂道を登り切ると勾配が緩やかになり視野が開けます。そこが城（丈）の橋跡とされる場所です。ここから山道は二手に分かれます。まっすぐ行けば高城山の山腹伝いに金峯神社へ、右手の緩やかな下り坂を進むと「金照坊」地区に到ります。

「金照坊」地区の北側に傾斜する標高600mから620mの斜面上に12ヶ所の平場があります。最高所の平場1がもつとも広く（東西幅65m、奥行き約30m）、主な遺物もそこで採取

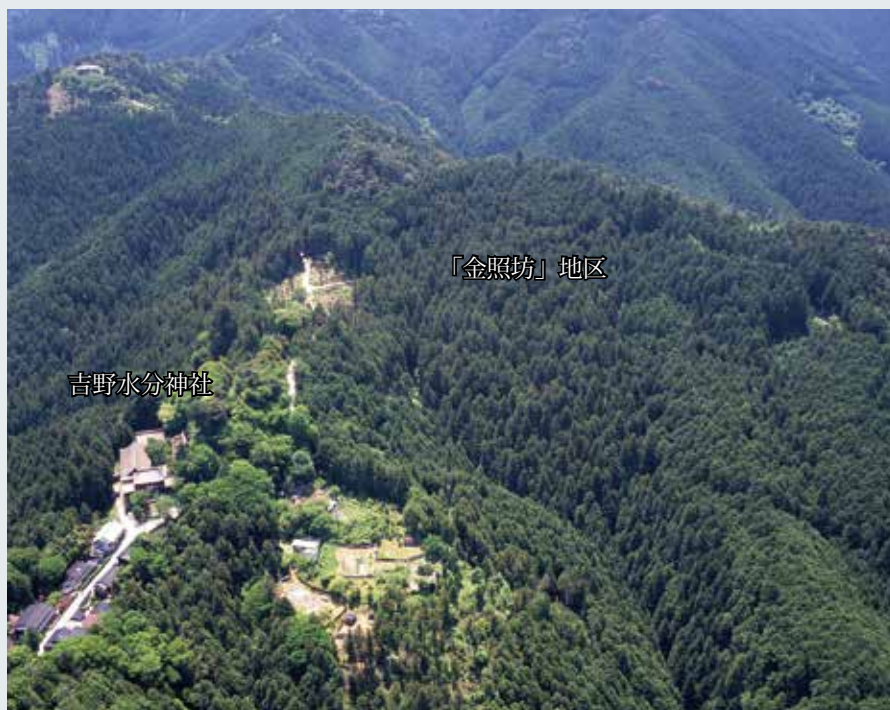
されています。採取遺物の中には10から11世紀代の土師器皿や12世紀前後の瓦器碗などがあります。

平安時代、「この世をば わが世とぞ思ふ 望月の 欠けたること なしと思へば」という歌を残した藤原道長は、寛弘4（1007）年8月に御岳詣（金峰山参詣）を挙行しました。その記録は、道長の日記『御堂関白記』に残されています。道長は、8月2日に京を発ち、11日、山上蔵王権現御在所本堂で盛大な法要を行いました。12日、下山の際に山下金照坊に立ち寄り、13日に帰京しています。道長は、山下金照坊について、「其寺甚美也」（その寺はたいへん美しい）と記しています。

「金照坊」地区には、金勝坊跡という地元の言い伝えがあります。平場1からは、木の間を通して金剛・葛城山から二上山にかけての山並みや奈良盆地が垣間見えます。人工林を伐採すれば、北西方向の眺望がきき、たいへん眺めのよい場所です。「金照坊」地区は、道長が立ち寄った山下金照坊跡の有力な候補地の一つと考えられます。



吉野山南部遺跡群と各地区の遺構分布状況



吉野水分神社・「金照坊」地区遠景

き28m)、周辺からは須恵器・土師器皿・瓦器椀など11世紀半ば～12世紀半ばの遺物を中心として、その前後の時期の遺物が採取されています。

平場1の中央部やや西寄りに一辺約10m、残存高80cmの土壇が残されています。平場1は、地元で「トウヤシキ」と呼ばれています。この土壇に由来する

るのでしよう。

この土壇について、地元には「白川宮塔院跡」という言い伝えがあります。

『扶桑略記』には、寛治6(1092)

年7月13日、白川上皇が金峰山を参詣したことが記されています。この時、

上皇は参詣前に山下の宝塔院に滞在し突然病に見舞われましたが、園城寺

権僧正隆明の加持祈祷によって、

たちどころに病が癒えたと記されています。上岩倉地区の平場1は、白川上皇が滞在した宝塔院跡の可能性があり

今回は2箇所の平場群を紹介しましたが、ほかにも多数の平場群が存在しています。これらの平場の性格については、寺坊跡・人家・畑地・墓地・南北朝動乱期の郭の一部など様々な可能

性がありますが、やはり「金照坊」地区と関連する寺坊跡の可能性が高いと考えられます。それらの中には、寺院の退転後、人家・畑地・墓地などに利用されたものが含まれているかもしれません。また、比叡山延暦寺や多武峰談山神社と同様に山岳寺院が中世に城砦化した可能性も考えられます。

水分神社東北地区・子守西地区・城(丈)の橋地区では、8～9世紀代の

須恵器の破片が採取されています。「金照坊」

地区と上岩倉地区でも須恵器の破片が採取され

ているので、この地域の開発は古代に遡るよう

です。つまり、吉野山は象谷治

いに、まず吉野山南部の「奥之

院」から開かれ、後に山下蔵王堂

へと展開したと考えられるので

す。

◆上岩倉地区

上岩倉地区は、高算上人堂跡から南に下る斜面にあります。谷を隔ててA～Cの三つの地点に比較的大きな平場が分布し(標高565m～585m)、それぞれに複数の小規模な平場が付属しています。なかでもA地点の平場1



岩倉千軒・上岩倉地区遠景

催し案内

● 第10・11回 宇陀文化財講座

「奈良県南東部の考古・美術（1・2）」

◇日時 平成31年3月17日（日） 11時～16時（開場10時）

◇場所 奈良県立橿原考古学研究所 室生埋蔵文化財整理収蔵
センター 講座室（奈良県宇陀市室生大野1366）

番地 旧室生高等学校)

◇交通 近鉄大阪線室生口大野駅より徒歩10分

自家用車可（駐車場有）

◇内容 ① 「宇陀松山城と澤城」

本村 充保（檀原考古学研究所調査課係長）

② 「戒長寺の平安仏について」

神田 雅章（龍谷大学教授）

③ 「宇陀とその周辺地域の磚積石室墳」

柳澤 一宏（宇陀市教育委員会文化財課主幹）

④ 「宇陀の前方後円墳と韓国の前方後円形墳」

一瀬 和夫（京都橘大学教授）

●書籍のご案内

『黒塚古墳の研究』

奈良県立橿原考古学研究所編

初期ヤマト王権の前方後円墳を掘る！

◆**竪穴式石室より、三角縁神獸鏡33面、大量の鉄製武器などの**

副葬品が出土した3世紀の前方後円墳の発掘調査報告。

◇平成30年9月13日刊行、B4版、586頁、上製本、函入

◆定価32000円＋税、八木書店刊

『檀原考古学研究所論集 第17』

奈良県立橿原考古学研究所編 創立80周年記念論集

大和を掘る！ 最新の発掘調査成果をふまえた論考！

◇考古学を中心に、周辺分野の専門家を交えた35名の学際的な執筆陣による33本の論考を所収。

◇平成30年9月13日刊行、A4版、280頁、上製本

◇定価22000円＋税、八木書店刊

予告!

